

はじめに

日本原子力技術協会(以下、「原技協」)は、平成20年度に燃料加工メーカー、燃料使用施設、製造・設計施設を対象としたピアレビューを5回実施した。本報告書は、この5回のピアレビュー活動に関するセルフアセスメントの結果をまとめたものである。

原技協では、平成19年度までに実施した原子力発電所のピアレビューの実績から、米国原子力発電運転協会(以下、「INPO」)で実施しているレビュー方式が効果的であると判断した。これを踏まえて、平成20年度から、燃料加工メーカー、燃料加工施設、製造・設計施設のピアレビューについても、従来の書類確認を中心としたレビューから観察とインタビューを中心としたINPO方式のレビューに変更した。

このため、平成20年度に実施した5回のピアレビューについてセルフアセスメントを行い、改善事項を摘出して、今後のピアレビュー活動の改善に資することとした。

なお、本セルフアセスメントのチームには、原技協の職員のほか、NS(ニュークリアセフティ)ネットおよび原技協のピアレビューに通算4回参加したピア1名と原技協テクニカルアドバイザー1名がアドバイザーとして参加した。

概要

1. 方法

本セルフアセスメントは、平成 20 年度に行った原子燃料工業株式会社、三菱原子燃料株式会社、日立GEニュークリア・エナジー株式会社、ニュークリア・デベロップメント株式会社、株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンのピアレビューを対象とした。

まず、ピアレビュー実施に関する方針や要領書、ピアレビュー実施計画書、報告書およびピアレビュー終了後に行ったホスト事業所¹とレビューワーへのアンケート結果、を基に着眼点の検討を行った。さらに、ピアレビュー関係者のうち、ホスト事業所事務局、ピアレビューワー²、原技協テクニカルアドバイザーへインタビューのための事前アンケートを行い、これらを踏まえたピアレビュー関係者へのインタビューを実施した。

これらに基づき、ピアレビューの各実施プロセスについてチーム内で問題点についての議論を行い、プロセスの妥当性を評価するとともに、問題点に対する改善事項を抽出した。

インタビューの対象者は以下のとおり、この 5 回のピアレビューに係わった原技協外部9名と内部7名の合計16名である。

(原技協外部)

ホスト事業所事務局 5名

ピアレビューワー 4名

(原技協内部)

理事長、専務理事、NS ネット事業部理事部長、職員2名、

テクニカルアドバイザー2名

¹ ピアレビューを受けた事業所

² ピアレビューの「ピア」とは、「同業者」という意味であり、レビューワーとして、原技協のレビューワーの他に、NS ネット事業部の会員会社からレビューワーを派遣。これを「ピアレビューワー」という。

2. スケジュール

セルフアセスメントは、表1に示すとおり、平成21年3月17日(火)～19日(木)の間、原技協事務所で実施した。

なお、セルフアセスメントの実施に先立ち、アセスメントに必要な情報を得るため、ピアレビュー関係者へのアンケートを2月に実施し、事前分析とインタビュー内容の検討を3月9日(月)に行うとともに、ピアレビュー関係者へのインタビューを3月10日(火)～13日(金)に実施した。

表1 セルフアセスメントスケジュール(実績)

		セルフアセスメント実施内容
3月17日(火)	午前	・ 問題点の抽出作業
	午後	・ チームミーティング ・ 問題点の文書化
18日(水)	午前	・ チームミーティング
	午後	・ チームミーティング ・ 改善事項(案)の文書化
19日(木)	午前	・ チームミーティング ・ 改善事項(案)の文書化
	午後	・ 報告資料準備 ・ 原技協経営層へのセルフアセスメント結果報告

3. チーム構成

セルフアセスメントの実施体制は、以下のとおりである。

- リーダー : 邑田評価グループリーダー(原技協)
メンバー : 池田(原技協)、仙波(原技協)、中西(原技協)
アドバイザー:ピアレビューワー経験者1名、原技協テクニカルアドバイザー1名、
原技協NSネット事業部計画G安全文化担当1名

4. 結果の概要

4.1 改善事項

セルフアセスメントの結果、改善事項として6件を抽出した。これらの改善事項の概要は以下のとおりである。

4.1.1 ピアの効果的な活用

原技協のチームリーダーやレビューワーは、ピアの能力を効果的に引き出していない。この結果、ピアの専門知識や経験が十分に反映されないレビューが多くなっているため、改善すべきである。

4.1.2 レビュー前段階でのフォーカスエリア(着眼点)の絞込み

レビュー前の段階で、フォーカスエリアがしっかり絞り込まれていない。この結果、ピアレビュー実施現場で問題となる事実が効果的に集められているとは言えないため改善すべきである。

4.1.3 ホスト事業所とのコミュニケーションの充実

問題となる事実とその原因・要因についての議論が十分に行われていない。この結果、ホスト事業所が有効な改善策を立てにくくなっているため改善すべきである。

4.1.4 ピアレビュー報告書記載内容の充実

ピアレビュー報告書に問題となる事実やその原因・要因が明確に記載されていないものがあり、その結果、ホスト事業所が有効な改善策を立てにくくなっている。また、ホスト事業所にとって自明な内容が多く、問題のあるパフォーマンスに関する記述が少なくなっているため、改善すべきである。

4. 1. 5 ピアレビューの体系的な改善

ピアレビューを継続的に改善するための活動が、体系的に行われていない。その結果、ピアレビューの改善策が抽出されなかったり、抽出されても確実に実行されないおそれがあるので、改善するべきである。

4. 1. 6 良好事例の活用

ピアレビューで抽出された良好事例が会員に十分に活用されていない、あるいは活用されている良好事例の範囲が限られている。会員に対し、他事業所の良好な事例を参考に、自事業所を改善する機会を十分に提供できていないので、改善するべきである。

以 上